



コンテストでは多彩な音色を奏でた菅谷さん

輝いています

JBA埼玉県部会中学生管打楽器ソロコンテスト県知事賞

ひと

すが や ゆう き
菅谷 優希 さん

情熱を胸に更なる高みへ

2 月10日に行われた「JBA埼玉県部会中学生管打楽器ソロコンテスト」事前審査を経て本選に駒を進めた46人の中の一人、第二中学校3年生の菅谷優希さん（14歳・中央3丁目）は、トロンボーンの演奏で、みごと、埼玉県知事賞に輝きました。楽曲への深い理解からくる中学生離れした表現力や演奏の技術力に、審査員全員が唯一、満点評価をしての結果です。

でも難易度が高く、幼稚園の頃からピアノで音楽に慣れ親しんでいた菅谷さんでも、「最初は、思いどおりの音が出ませんでした」と話します。そんな苦労も忘れるほど衝撃的だったのが、プロの生演奏を聴いたこと。トロンボーンを持つ幅広い音色と豊かな表現に魅了され、それ以来、より高みを目指して部活動はもろろん、自宅でも夢中になって練習を続けてきました。

「ソロコンテストでは今の自分が出せる最高の演奏ができました」と、菅谷さん。続く関東大会では、コンディションが万全でなく、惜しくも賞は獲得できませんでしたが、「次回は全国最優秀賞を目指したい」と、大きな目標に向けて気持ちを新たにしています。

部活動での後輩への指導は「熱心に分かりやすく教えてくれるので頼もしい」と、評判です。そんな菅谷さんにとって、みんなで一つの音楽を作り出す吹奏楽は、「ソロの演奏にも負けないくらい大好き」と、にっこり。中学校生活最後の年に悔いを残さないためにも、音楽への情熱を絶やさず、日々の練習をたいせつにしながら、思い描く「最高の音」に一步一步近づけていきます。

今月の河鍋晩斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

— No.24 —

Kyosai
Kawanabe

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勸業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の晩翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 晩斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)

大きな鯉こいの下を、鍾馗しゆきが胃い人形じんぎやうを持った鬼を連れて歩いて行きます。風におおられて大きくうねる鯉こいは勢いのある筆遣いで一気呵成いっかかせいに描かれています。

この絵は『広報蔵』3月号で紹介した「月次風俗図」シリーズの5月を描いた一幅です。全12幅は全て即興で描いた「席画」で、各月にふさわしい行事や風俗が、素早い筆さばきと淡い色合いで描かれています。5月は鍾馗自身が端午の節句の準備をするユーモラスな姿が描かれており、晩斎ならではの機知に富んだ作品に仕上がっています。

河鍋晩斎記念美術館 5月1日(火)～6月25日(月)
「晩斎・晩翠が見た明治維新150年」展 同時開催
「河鍋楠美コレクション 寄贈作品による現代作家」展

開館＝午前10時～午後4時
休館＝木曜日
毎月26日～末日
ところ＝南町4-36-4
入館料＝一般600円
中学生～大学生500円
小学生以下300円
(20人以上の団体は要予約)
詳細＝同館(☎441・9780)



展示会の詳しい
内容は美術館の
ホームページを
ご参照ください



晩斎筆
「月次風俗図 五月 鍾馗と鯉」
明治7年(1874) 紙本淡彩

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます